

「高崎のほどよい規模は 小商いにぴったり」

CHECK

「まちなか商店リニューアル事業補助金」

商売を営んでいる人、または営もうとする人が、「店舗等の改装」や「店舗等で専ら使用する備品の購入」を行うことに対し、100万円を限度に、その費用の2分の1を助成します

落ち着いた雰囲気店内。席と席との間隔も広く、ゆったりとした気持ちで過ごすことができる。女子高生からマダムまで、お客さんの層も幅広い

café 紅うさぎ
住所：群馬県高崎市相生町20
営業時間：11:00～17:00
定休日：毎週水曜・木曜

「Café 紅うさぎ」は、横浜市で雑貨店を経営していた中原さんご夫妻が高崎市に移住し、2015年にオープンしたお店。看板メニューのカツサンドやパンケーキ、お店のゆったりとした雰囲気が人気です。高崎市で起業した5年間について話を聞きました。

café 紅うさぎ

移住者インタビュー

中原陽さん・富美子さん

文化が息づく街

スポーツの力、市民の力

広がる高崎ブランド

変革を続ける都市力

暮らしに心地良さを

資料

地価は横浜の約5分の1 店舗兼住宅でカフェをスタート

「新しい人に会って、新しいことにチャレンジする、それがとても楽しいです」。café 紅うさぎを営む中原富美子さんは、生き生きと話します。

「高崎でお店を始めて本当に良かったと思います。起業するならば、まず東京、仙台、博多など、大都市が思い浮かびますが、競争が激しく、土地代も高額です」と話すのは、富美子さんの夫の陽さん。中原さん夫妻は、当初、雑貨店を経営していた横浜で場所を探しましたが、店舗兼住宅で駐車場付きという条件に合う土地は見つかりませんでした。

ちのような小商いに、ぴったりの土地です」と陽さんは話します。
「ほどよい」とはどういう意味か、陽さんはこう説明してくれた。「食材流通、住宅、造園、店舗サイン・設計など、パートナー企業がそろっています。そして、大都市ほど競争が激しくない」。

また、中原さんは「まちなか商店リニューアル事業補助金」(CHECK)など市の支援制度を利用しています。「所得制限などの条件もなく、とても利用しやすいですね」と陽さん。

「高崎では人に恵まれました。このあたりの方は、適度な距離感で世話を焼いてくれます」と富美子さん。あるデザイン会社の社長には、デザインだけではなく、いろいろな

した。そこで候補に挙がったのは、友人が住んでいて花火大会などで何度か訪れていた高崎市でした。横浜市と比べると地価は5分の1ほど。これが決め手となり、高崎への移住を決めたそうです。「高崎とは特別な深い訳では無かったのですが、「えい！」と飛び込んできた感じ。5年経った今考えると、思い切ってやってみる、そうしないと見えないことも多いですね」と富美子さんは話します。

人口37万、ほどよい規模で 市の制度やパートナー企業も充実

「高崎は、ほどよい、規模の街です。大きな利益を目指さない、私た

困りごとを相談しているそう。」高崎でお店をやって本当に良かったと思いますよ」と富美子さんは笑顔で話します。「今日、そんな言葉が聞けるとは思わなかったよ」と陽さんが笑いかけます。



注文を受けてから生地をつくるパンケーキ。ふわふわ食感がたまりません。中原さん夫妻共通の趣味「食べ歩き」から生まれたオリジナルメニューです